

令和5年度 税についての作文

高校生の部 公益社団法人八尾納税協会 会長賞受賞作品



作品名 幸せの税

学校法人関西金光学園

金光八尾高等学校 三年

浅井 香 鈴

なぜ最近になって多くの人が税について不満を感じるようになってしまったのだろうか。ニュースを見ると増税について、税の使い道に関する世間の反応は良いとは思えない。税があるからこそ今の生活が送れているということは恐らく多くの人が理解しているだろうと思う。

税に不満を感じる＝生活に余裕が無くなり不安が広がったと私は考えた。実際にここ数年で物価上昇や新型コロナウイルスなど、経済不安が広がり所得の格差も広がった。自分の生活に余裕がなくなると見ず知らずの他人なんて気にしている場合じゃなくなってしまう。他人に無関心になってしまう。そんな状態でみんなお互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくために税金はあると言われたって心には響かない。

多くの人が不安を感じ、他人に無関心になるほど余裕がない社会。そんな社会を変えるにはどうすればいいのか。自分だけが、他人だけが幸せになるのではなく、自分を含めたみんなが幸せになるためにはどうすればいいのか。

世界価値観調査によると日本の人々は「政治」への関心は高いが話題にしない。だが一方で社会に対する質問では「改革によって徐々に変えていかなければならない」と考える人は多いと分かった。このままではいけないと思いながらも動けないでいる人がいる。実際私もその一人だ。この税の作文を書くまでは「消費税 10%キツイなあ。」など思っていただけでそれ以上何も税について考えもしなかっただろう。税について不満を感じる人が多いということは、多くの人が税に関心を持っているということであり、明るい未来をつくるための大きなチャンスになる。選挙以外にも電話や相談窓口、インターネット、手紙、FAXなど自分の意見を反映させる手段はたくさんある。皆が自分事として考えなければならない。国民全員が税について考えなければならない。そして国は、国民の信頼を取り戻さなくてはならない。税金の使い道は「会計検査院」と呼ばれる機関が国の決算を検査し、国会に報告している。指摘は多く、何よりも、予算の状況の情報提供が少ないと私は思った。政府と国民は信頼し合い、協力しなければならないと思う。

今回、税の作文を書くために調べたことは私が税について知り、意見を述べる良い機会となったと私は思う。たくさんの人に税について知ってもらいたいと思った。そして私も自分を含めた皆の将来のためにもっと税のことを調べ、自分の意見を持てるようになりたいと思った。